



⑪

百四十年以上にわたりこの地域にあまたの教員を輩出してきた愛知教育大(刈谷市井ヶ谷町)。教員の多忙さが問題視される近年、教員採用試験の倍率は低下傾向にある。自身も愛教大の卒業生で四月に就任した野田敦敬学長(左)に、教員養成大学の進むべき方向を聞いた。

(聞き手・神谷慶)

—大学の使命として「中部地区の広域拠点型教員養成大学」を掲げる

—国と国立大が各大学の強みや役割を整理し、七年前

—種、ほぼ全ての教科、特別支援、養護教諭の免許を二

愛知教育大・野田敦敬学長



のだ・あつりの 1958年生まれ、名古屋出身。愛知教育大学院教育学研究科修士課程理科教育専攻修了後、名古屋市小学校教員を14年間務めた。97年から愛知教育大助教授、2005年から教授。教育・学生担当理事を経て今年4月に学長に就任。専門は生活科教育と総合的学習。大学時代は剣道部で稽古にいそしんだ。

人づくり 教員の魅力



愛知教育大=刈谷市井ヶ谷町広沢で、本社ヘリ「おおづる」から

つの大学として出せるのから、必要な知識と実践力を高める「教師教養科目」を新設した。近年の教育課題への対応と、現場での生身の体験を重視している。一九四九年に新制大学となつて以来、約七万人の卒業生を輩出してきた。正規教員採用数は一昨年まで九年連続全国一位だった。質、量ともに中部の教員養成の中核を担ってきた。

「入門」「I」を新設した。九百人規模でやっている所は他に無いと思う。三年次から選択で「企業体験活動」やアジアの協定校を中心に現地で教育事情を「多文化体験活動」なども設けた。講義と体験をつなげたい。

「外国人児童生徒の支援など、この地域ならではの課題に取り組む姿勢も示している。

愛知は日本語指導を要する外国籍の子が全国でも断然多い。指導者を養成・研修する日本語教育支援センターを四月に開設したの

「教員志望者は減少傾向にある。愛知は「モノづくり県」だが、その基盤は人づくり、つまり教育だ。教員養成大学の学長として教員の魅力回復に努める。地域の多様な職種の方が参加する

愛知教育大 国内に11校ある国立大学法人運営の教員養成大学の一つ。1873(明治6)年設立の県立成学校が起源。1949(昭和24)年、愛知学芸大が発足、66年に現名称に改称した。70年、岡崎市にあった本部・分校と名古屋市の分校が、刈谷市の現在地へ統合移転。5月1日現在、教育学部に3743人、大学院に284人、専攻科に29人が在籍する。